

の交易支え 史たどる

三條で
展示会
幕末期の手形も

越後と奥会津を結び、古くから人と物が往来してきた「八十里越」に焦点を当てた展示会「歴史の道八十里越 難所の続く峠道」が、三条市庭月の諸橋轍次記念館で開かれている。縄文時代から現代までの歴史を資料や写真を交えて詳細に解説している。

り発信を



「人が集まる新潟」をテーマに登壇者が意見を交わしたトークセッション。25日、新潟市中央区

い」と話した。

この日はまちづくりや次世代人材の育成などに取り組む10団体を表彰する式典

グローバルにいがた @世界の街



タイ・バンコク

月曜掲載



バンコクは交通渋滞が起きやすく、私は安全のため車を運転していません。しかし、交通網が発達しており、不便さはさほど感じません。スカイトレイン（高架鉄道）や地下鉄での移動が便利ですが、私はあえて、路線バスや運河ボートでの移動をお勧めします。

現在、高層のショッピングモールやマンションがどんどん建設されています。その谷間には、平屋建てが密集し、昭和時代の日本をほうふつとさせる町並みが存在し

高橋 映子さん

新潟市中央区出身



ています。バスやボートに乗ると、街の様子を手取るように感じることができず。運賃は、車掌さんが集めに来ます。車掌さんは、子どもたちが騒ぐと大きな声で注意したり、空いている席を指して教えてくれたりと采配を振るって

バンコクでは、かつて日本で使われていたバスが今も現役。板張りの床の隙間から路面が見える

週末は、バスに乗って食料の買い出しに市場に行きます。食文化が豊かなバンコクには、市場が随所にあります。私が行くのは東の台所といわれているクロントウイ市場です。鶏はその場でさばか

バスは早朝から深夜まで走っていることになっていますが、一斉に休憩する時間があるようです。バス停で1時間以上待つていたことも何回かあります。だからこそ、バスに乗れたときの幸福感はひとしおです。

バスに乗るときは、今でもドキドキします。ガイドブックに「手を斜めに下げるのが乗車の合図」と記載してありましたが、素通りとされたことが数回ありました。今では「乗ります」と言いながら飛び跳ねています。

海外で暮らす本県関係者が現地の様子を紹介します。ウェブサイトに新潟日報デジタルにも掲載。執筆希望も受け付けています。



（高橋映子さんは1963年生まれ、新潟市中央区出身。県内で小中、特別支援学校の教員として勤め、退職した2025年から、文科省のシニア派遣教師としてバンコクで勤務しています）

れています。豚も頭から足まであらゆる部位が手に入ります。基本的に業者さんが買い付けに来る市場です。日本語も英語も通じませんが、買い物をしてしているとたくさん笑顔が返ってきます。これぞ、ほほ笑みの国ですね。

バンコクでの生活は、日本での当たり前が完全に覆されることがあります。「マイペンライ（どうってことないさ）」の精神で、うまくいったら最高と思えるようになってきました。

将来の夢 見つかった？ 「こどもシゴト博」にぎわう

長岡

子どもたちが職業を体験する「ゴト博」が26日、アオーレ長岡で開身近にある企業で働く仕事に触れ、思い描いた。

地元企業や職業子どもたちや親子らいたいと、明治保険長岡支社が今回。市内の企業体が出展し、未就学学生約600人が参加した。

会場には建設業ス業など幅広い1スが並び、ホニ本館では、ス